

令和 4 年 6 月 7 日現在

機関番号：10102

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19K02995

研究課題名（和文）保護者対応を語る異世代教師たちの経験交流型ワークショップ開発に関する研究

研究課題名（英文）Study on the development of teacher-training program for intergenerational exchanges to narrate their experiences of interaction with guardians

研究代表者

植木 克美 (UEKI, Katsumi)

北海道教育大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：70292068

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）： 今日的な教育課題である保護者支援について、異世代教師たちが主体的対話的に学び合う経験交流型ワークショップを開発しました。そして、次の成果を得ました。

教師たちの世代生成、特に若手教師の学びを支えるために保護者支援のワークショップをパッケージ化し、ワークショップ参加者から肯定的評価を得ました。ホームページ『保護者支援をともに学ぶ教育者ネットワーク』を開発し、若手教師を支援する「人のネットワーク」を「Web上における人のネットワーク」にまで発展させる基盤を構築しました。そして、ワークショップマニュアル、教材「保護者支援に関する悩み事対応集」を作成し掲載できました。

研究成果の学術的意義や社会的意義

創造的な語り合いの場としてワークショップを開発し、異世代教師たちのコミュニティづくりを進めることにより、教師集団における年齢構成の不均衡という課題にアプローチし、保護者支援で難しさを抱える学校教師、特に若手教師に学びの場を保障することができました。そして、若手教師はワークショップにおいて情緒的サポート、道具的サポートを先輩教師から得ることができました。さらに、保護者支援について先輩教師が培った経験知から若手教師が学べることを可能にしました。

研究成果の概要（英文）： The issue of imbalances in the makeup of the teacher population by age was approached through development of workshops as opportunities for constructive dialogue and promoting community-building among different generations of teachers. As a result, the project was able to assure learning among school teachers who sensed difficulties with guardian support particularly younger teachers. Younger teachers also were able to obtain from their senior colleagues emotional support and instrumental support in the workshops. Furthermore, younger teachers were able to learn from the knowledge based on experience accumulated by senior colleagues regarding guardian support.

研究分野：教育工学及び学校臨床心理学

キーワード：教師教育 経験交流型ワークショップ 経験知 若手教師のための悩み事対応集 エデュサポネット

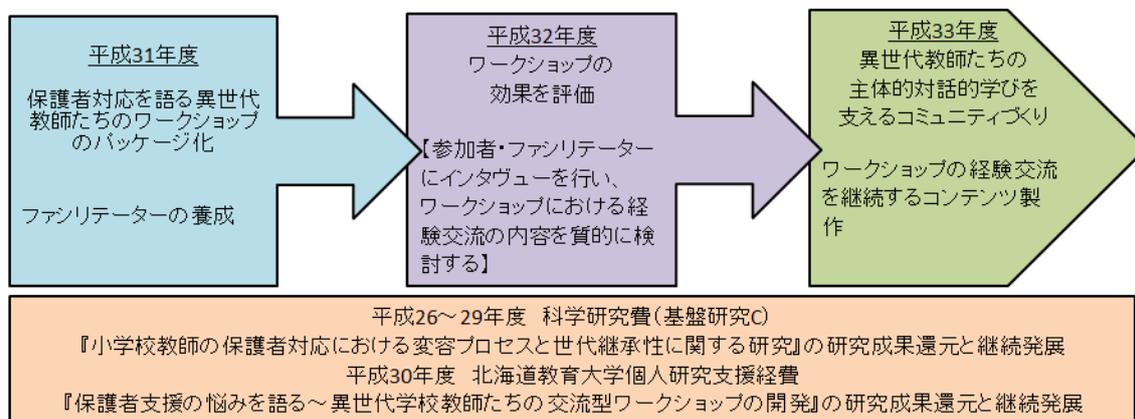
科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

子育てに困難を抱える家庭、保護者が増え、子どもの発達に不安をもつ保護者もいますが、学校は保護者の要望・苦情等への対応に苦慮しています(小野田、2015)。若手教師にとっては、負担感のある保護者支援ですが、難しさを感じる保護者支援を乗り越えることで若手教師は自分が「成長した」と考え、支えになったのは経験豊富な先輩教師としています(中原ほか、2015)。しかし、近年、団塊世代の教師が大量に退職しそれに伴う若手教師の大量採用により、教師集団における年齢構成の不均衡が起これ、教師コミュニティにおける勤務年数のアンバランスが異世代の教師たちの自然な学びを難しくしています。さらに、近年は教師の多忙化や学校環境の変化等により教師たちのかかわりが少なくなったと言われ、炉辺談話、廊下の会話といった日常的コミュニケーションが教師たちの間でとりにくくなっています。また、熟年教師からは若手教師に困ったときには抱え込まないで相談して欲しいといった声も聞かれます。このような状況にあって、教師が子どもの成長発達を支援する専門性と深く関連する活動の一環として保護者支援を認識し、保護者とのかかわりに求められる教師の資質・技能を向上させる学びのコミュニティを教師、特に若手教師に保障していく必要があります。そこで本研究では、異世代の教師たちの学びをサポートする経験交流型の研修をデザインすることを考えました。教師は互いに自分のライフ・ヒストリーを語り合うことで、互いの問題を解決できるとされます(Aspinwall, 1986)。また、集団で語り合うことで新たな語りが創造され、語り合いをコミュニティのエンパワメントの源にできるとされます(Johnson-bailey, 2010)。これを踏まえて、創造的な語り合いの場としてワークショップ型研修を組織し、異世代教師たちのコミュニティづくりを進めることにしました。

2. 研究の目的

今日的な教育課題である保護者支援について、教育工学的アプローチにより異世代教師たちの主体的対話的学び合いをサポートするために経験交流型ワークショップを開発し、パッケージ化を進めます。具体的には次の3つを行います。① 教師たちの世代継承、学びを支えるために保護者支援のワークショップをパッケージ化します。② ワークショップにおける参加者のふりかえシート、参加者へのインタビューにより学びの質を検証し、ワークショップの効果を評価します。③ 多忙な教師たちが学びを深められるように、対面によるワークショップでの経験交流をオンラインで継続できるコンテンツを製作し、研究を発展させます。



3. 研究の方法

(1) ワークショップのパッケージ化及びワークショップの評価

学校教師に研究協力を依頼し、ワークショッププログラム(試案)を実施します。実施後、アンケート調査及びインタビュー調査を行うことでプログラム評価を進めます。そして、インタビューの逐語録を修正版グランデット・セオリー・アプローチ(木下、2003)により分析し、経験交流による参加者の学びの過程を検討します。合わせて、ワークショップのファシリテーター養成講座参加者を募集し、養成を行います(講義と実習、実習ふりかえり、により行います)。

(2) ワークショップでの経験交流をオンラインで継続できるコンテンツを製作

ワークショップの参加者同士が交流をオンラインで継続して展開できるホームページを製作し、異世代教師たちのコミュニティづくりを進めます。

4. 研究成果

(1) ワークショップのパッケージ化及びワークショップの評価

ワークショップのねらいは、①異世代の教師が抱える保護者とのかかわりにおける実践的課題を理解する、②保護者とかかわった経験を異世代の教師たちと交流する、③②を通して、これからの保護者支援について展望をもてるようにする、の3つです。ワークショップは対面（以下、リアル）とオンラインの2つの形態があります。リアルを3時間で実施していますが、オンラインを、集中して参加でき、疲労が残らないように考慮し1時間45分に再編しています。

<ワークショッププログラム>

- ① オープニング (15分) 趣旨説明, グループづくり
- ② 自己紹介 (20分) グループごとに自己紹介
- ③ 保護者支援の経験のふりかえりシート記入 (15分) 個人作業
☆ 休憩 ☆ (10分)
- ④ 1ラウンド 保護者支援の経験交流 (15分) 一人目の語り
- ⑤ 2ラウンド 保護者支援の経験交流 (15分) 二人目の語り
- ⑥ 3ラウンド 保護者支援の経験交流 (15分) 三人目の語り
- ⑦ 4ラウンド 保護者支援の経験交流 (15分) 四人目の語り
- ⑧ グループ内での全体交流 (15分)
- ⑨ 経験交流のふりかえりシート記入 (10分) 個人作業
- ⑩ 経験交流の分かち合い (30分)
- ⑪ クロージング (10分) グループからの報告

<ワークショップ紹介動画>



[ワークショップ模擬体験 | エデュサポネット Educator Support Network](#)

ワークショップの形式評価

第1回目のリアルワークショップ開催にて参加者20名に実施したアンケートでは、ねらい①の評価は5.7、②が5.9、そして③が5.7（いずれも6件法）と達成度は高くなっています。また、ワークショップの進行・運営についても概ね良好な評価を得ており、参加者は安心して主体的にワークショップに取り組み今後の保護者支援に活かしたいことがあったと評価しています。

ワークショップの質的評価—参加者の学びの過程

学校教師の研究協力者19名（職経験年数1年目～36年）へ個別にインタビュー（約50分～90分程度）を行い、ワークショップの効果を検討しました。インタビューデータの逐語録を修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（木下、2003）を用いて分析しました。分析の結果、27の概念と8つのカテゴリーを生成しました。Figure 1にカテゴリーと代表的な概念4つを図示しています。概念を< >、カテゴリーを【 】で表します。

保護者支援の経験を交流する中で、先輩教師の多くが若手教師の経験を聞いて気持ちがわかる自分にも似た困りごとがあったと思い起こしています。そして、先輩教師は若手教師に質問したり考えを深めるヒントを出すことで、若手教師が自分の悩み事を<見つめ直す><再確認する>経験を引き出しています。また、若手教師は先輩教師の経験を【聞く】ことで、自分の悩み事を<聞いてふりかえる>、<聞いて気づく>経験をしています。さらに、若手教師は聞いたことを<やってみよう>と、実行していました。このようにして、先輩教師の経験知が若手教師に継承されています。なお、この【経験知の継承】には、若手教師を気にかけて、そして<サポートしたい>という先輩教師が持つ【世代生成】の意識が関係しています。

以上のように、本研究で開発したワークショップにおいて、保護者支援に困っている若手教師が先輩教師からサポートを得ていること、先輩教師の経験知が若手教師に受け継がれていることがわかりました。

ワークショップのファシリテーター養成プログラムを作り、ファシリテーター2名を養成しています。

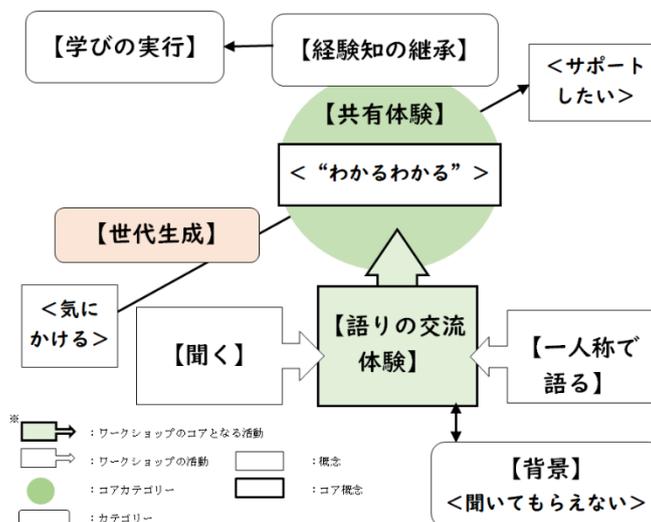


Figure 1 参加者の学びの過程

(2) ホームページ『保護者支援とともに学ぶ教育者ネットワーク』（通称エデュサポネット Educator Support Network）の製作

コロナ禍にあって、当初計画よりもオンラインによるコミュニティづくりを一層進展させる必要性、社会的意義を認識し、ホームページのコンテンツづくりを進めました。そして、ワークショップの参加者同士が交流をオンラインで継続して展開できるようにするために、「人のネットワーク」を「Web 上における人のネットワーク」にまで発展させる基盤を構築しました。

<エデュサポネット>



『保護者に関する悩みごとの教材集』の製作、掲載

若手教師が気軽にアクセスし、事例や先輩教師の経験から学ぶ効果を期待できる対応集を製作しています。学校教師の研究協力者にエピソードの執筆を依頼しました。その中から、筆者らが教師の多くが経験すると考えるものを選択し、「シナリオ」を書き起こしました。そして、学生が描いたエデュサポネットのキャラクターのイラストを添えました。ひとつの動画が3～4分程度になるよう編集し、学生にナレーションを担当してもらっています。若手教師が、①親しみやすく、分かり易いと感じる、②短時間で視聴できる、③情緒的及び情報のサポートを得る、ことに留意し、動画12個を製作し公開しています。閲覧した学校教師は、「どれもよくあるケースです。情緒的サポートの面は十分に満たされている」「こういった事例があったときに、先輩教員に相談出来れば良いが、必ずしもそういう環境が整っているわけではないと思うので、そういったときに頼れるもの（動画）があるのはいい」「参考になる」「わかりやすかった」と、評価しています。学校教師の執筆したエピソードから「シナリオ」を書き起こし、イラストを使い動画を製作したことで分かり易くできたと考えます。

さらに、ナレーションなしのエピソードも作成し、ナレーション付きと合わせて50を作成しています。

フリーワード検索から、Q&Aで保護者支援の悩みについての回答を確認し、そして関連するエピソードを閲覧できるようにしています。

(3) 今後の展望

現在、本邦では「令和の日本型教育」を担う教師の人材確保、養成が進められています。そして、Society5.0を目指し、文部科学省は「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策（最終まとめ）」（令和元年6月公表）を出し、「教師の経験知と科学的視点のベストミックス」を挙げています。その中で、ベテラン教師の実践知や暗黙知をビッグデータ解析することで若手教師たちに引き継いでいくことを構想しています。先端記述を活用し、これまで教師たちが培ってきた経験知を若手教師が継承する取組、現職教師の再教育をオンライン化する取組が進展されると言えます。

この動向にあって、若手教師に経験知を体得する学びの機会を保障し、世代の異なる教師たちが、いつでもどこからでも気軽に自ら学び続けられる環境を構築するために、本研究の成果を還元することができると考えます。そして、現職教師に対する再教育のための「オンラインシステム」の構築を進めていきます。

<引用文献>

- ① ASPINWALL, K. "Teacher Biography: the In-service Potential," *Cambridge Journal of Education*, Vol.16, 1986, pp. 210-215.
- ② JOHNSON-BAILEY, J. (2010) In ROSSITER, M. and CLARK, M. (Ed.) *Narrative Perspectives on Adult Education: New Directions for Adult and Continuing Education*. Willey Periodicals, Inc., A Wiley Company (立田慶裕、岩崎久美子、金藤ふゆ子、佐藤智子、萩野亮吾訳 2012 成人のナラティブ学習、人生の可能性を開くアプローチ 第7章他者の側面で学ぶこと、洞察とエンパワメントの手段 福村出版)
- ③ 木下康仁 (2003) *グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践、質的研究への誘い* 弘文堂
- ④ 文部科学省 新時代の学びを支える先端技術活用推進方策 (最終まとめ) https://www.mext.go.jp/component/a_menu/other/detail/__icsFiles/afieldfile/2019/06/24/1418387_02.pdf (参照日 2022年5月31日)
- ⑤ 中原淳 (監修)、脇本健弘、町支大祐 (2015) *教師の学びを科学する、データから見える若手の育成と熟達のモデル* 北大路書房
- ⑥ 小野田正利 (2015) *それでも親はモンスターじゃない!、親との付き合い方は新たなステージへ* 学事出版

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 植木克美・氣田幸和・鎌田良子・宮崎世司・篠塚友希野・浪岡美保・倉内明子・砂川敬恵子・三井理恵	4. 巻 18
2. 論文標題 保護者支援を共に学ぶ教育者ネットワーク、"エデュサポネット"の来し方行く末	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北海道教育大学大学院教育学研究科学校臨床心理専攻学校臨床心理学研究	6. 最初と最後の頁 91-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 植木克美・渡部信一・中島 平・川端愛子・後藤 守	4. 巻 70（1）
2. 論文標題 小学校教師の保護者対応における変容プロセスと世代継承に関する研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北海道教育大学紀要（教育科学編）	6. 最初と最後の頁 399-408
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 植木 克美・瀬野尾三奈子・渡部 良子	4. 巻 19
2. 論文標題 未就園児クラスの保護者を対象にした子育て支援	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 コミュニケーション障害研究	6. 最初と最後の頁 58-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 植木克美・中島 平・山本愛子・渡部信一	4. 巻 20
2. 論文標題 若手教師のサポートを目的とした経験交流型ワークショップの開発	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 コミュニケーション障害研究	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 植木克美・中島平・山本愛子・渡部信一
2. 発表標題 若手教師をサポートする経験交流型ワークショップの評価
3. 学会等名 日本教育工学会2020年度秋季全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 植木克美・砂川敬恵子・三井理恵・渡部良子・中島平・山本愛子・渡部信一
2. 発表標題 異世代教師たちのための経験交流型オンラインワークショップ
3. 学会等名 北海道心理学会第67回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 植木克美・保護者支援の経験交流研究会・川端愛子・中島平・渡部信一
2. 発表標題 世代の異なる教師の語り合いによる熟年教師の学び
3. 学会等名 北海道臨床教育学会第9回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 植木克美・渡部信一・中島平・川端愛子・高橋道也・氣田幸和・鎌田良子・宮崎世司・篠塚友希野・浪岡美保・砂川敬恵子・三井理恵・渡部良子
2. 発表標題 異世代教師連携によるワークショップにおける若手教師たちの学び
3. 学会等名 日本教育工学会2019年度秋季全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 植木克美・中島 平・山本愛子・三井理恵・宮崎世司・渡部信一
2. 発表標題 小学校若手教師のための「保護者に関する悩みごと対応集」動画の製作
3. 学会等名 日本教育心理学会第63回総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 植木克美・中島 平・山本愛子・渡部信一
2. 発表標題 ワークショップにおける若手教師の経験過程
3. 学会等名 日本教育工学会 2021年秋季全国大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 渡部信一・植木克美・大西孝志・三浦和美・佐藤克美・水内豊和・阪田真己子・高橋信雄	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 264
3. 書名 AI時代の教師・授業・生きる力、これからの「教育」を探る	

1. 著者名 渡部信一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 大修館	5. 総ページ数 189
3. 書名 AI×データ時代の「教育」戦略	

〔産業財産権〕

〔その他〕

ホームページ 「保護者支援をともに学ぶ 教育者ネットワーク エデュサポネット」 <https://www.edusupp.jp>

ハンドブック 「小学校若手教員のための保護者支援に関するなやみごと教材集」 総ページ数：20

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	渡部 信一 (WATABE Sinichi) (50210969)	東北大学・教育学研究科・教授 (11301)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	中島 平 (NAKAJIMA Taira) (30312614)	東北大学・教育学研究科・准教授 (11301)	
研究協力者	山本 愛子 (YAMAMOTO Aiko) (60584034)	北海道文教大学・人間科学部・こども発達学研究科・准教授 (30121)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関